

I 北海道の学力向上の取組に関する改善の方向性

ここでは、平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査結果を「授業改善」「検証改善サイクルの確立」「小学校と中学校が連携した取組の充実」「望ましい学習習慣の確立」の視点から分析し、改善の方向性と具体的な実践事例を掲載しています。

各市町村教育委員会、学校においては、本資料を参考に、それぞれの取組の工夫・改善を図るなど、児童生徒の学力向上に向けた取組の更なる充実に向け、ご活用ください。

1 改善の方向性

【本道の状況】

- (1) 「授業改善」の視点
「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の項目について、肯定的に回答した児童生徒の方が教科の平均正答率が高い傾向が見られる一方、取組を「よく行った」と回答した学校でも各教科の平均正答率が全国を下回るなどの状況が見られる。
- (2) 「検証改善サイクルの確立」の視点
各種データ等に基づく検証改善サイクルの確立に向けた取組がよく行われているなど、改善が見られる一方、取組を「よく行った」と回答した学校でも各教科の平均正答率が全国を下回るなどの状況が見られる。
- (3) 「小学校と中学校が連携した取組の充実」の視点
調査の分析結果の共有が近隣の小・中学校でよく行われているなど、改善が見られる一方、教育課程の接続等に関する取組をよく行っている学校の割合が全国を下回るなどの状況が見られる。
- (4) 「望ましい学習習慣の確立」の視点
家庭学習の課題の与え方について、校内で共通理解が図られているなど、改善が見られる一方、授業時間以外で1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合が全国を下回るなどの状況が見られる。

【改善の方向性】

P.4

(1) 授業改善

① 特に改善が必要な学習内容

<p>ア 小学校国語</p>	<p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く指導の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・より説得力をもって自分の考えを伝えるために、調査したことを報告する文章では、調べて分かった事実を基に自分の考えをまとめて書くことができるようにする。その際、報告する目的に応じて、どのような理由や事例を挙げて自分の考えをまとめることが適切かを十分考えて書くことができるようにする。 <p>【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 同音異義語に注意して、漢字を文の中で正しく使う指導の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・漢字による熟語などの語句の使用が増加する高学年では、漢字辞典を使って意味を調べたり、同音異義語を使い分けた短文作りをしたりする学習などを取り入れ、文や文章の中で正しく使うことができるようにする。
<p>イ 中学校国語</p>	<p>【話すこと・聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目的や場面に応じて話し合い、自分の考えをまとめる指導の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・各学年における話し合うことに関する指導を意図的・計画的に行うとともに、話すことに関する指導事項及び聞くことに関する指導事項との密接な関係を図って指導する。 <p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目的や意図に応じて相手に分かりやすく書く指導の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・各学年における記述に関する指導を意図的・計画的に行うとともに、小学校での学習を踏まえ、自分の考えの根拠として用いる情報が適切かどうかを検討したり、自分の考えとの関係が分かるように記述したりできるようにする。
<p>ウ 小学校算数</p>	<p>【数と計算】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 計算に関して成り立つ性質を見だし、表現する指導の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・適用する数の範囲を広げていきながら統合的・発展的に考え、計算に関して成り立つ性質を見だし、表現できるようにする。 <p>【図形】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 図形の性質や構成要素に着目して、図形を観察・構成する指導の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・図形の性質や構成要素に着目し、観察や構成などの活動を通して図形についての実感的な理解を深めることができるようにする。

工 中学校数学	【図形】 ○ 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見いだし、説明する活動の充実 ・ある結論が成り立つ事柄について前提を変えたときに、同じ結論が成り立つかどうかを検討する場面を設定する。 【関数】 ○ 事象の数学的な解釈に基づき、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実 ・問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」と「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動を充実する。
オ 中学校英語	○ 新学習指導要領（平成30年度から移行期間開始）に示した取組の着実な実施 ・一文一文を聞き取る・読み取るだけでなく、目的・場面・状況等に応じて聞く・読む言語活動を充実させる。 ・文法事項等を言語活動の中で理解し定着させる（和文に対応した穴埋めや語順整序だけではなく）。 ・即興のやり取りをはじめとして、話すこと・書くことの発信の言語活動を充実させる。 ○ 生徒の英語学習の意欲を高める指導の工夫 ・授業を実際のコミュニケーションの場面とする。 ・生徒の関心に応じた話題を取り上げる。 ・学習成果を適切に評価することで、学習意欲の向上を図る。など

※「(1) 授業改善」の「① 特に改善が必要な学習内容」については、平均正答率が全国よりも大きく下回った学習内容や、全国的に平均正答率が低い学習内容等

② 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導方法の工夫

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組の質の向上を図るため、児童生徒が課題解決に向けて主体的に取り組んだり、自分の考えが相手に伝わるように説明したりする学習活動を工夫するなど、取組を充実させることが大切です。

また、児童生徒に学習内容が身に付いたのかを見取りながら授業改善を進めるなど、児童生徒の学習状況を踏まえた指導方法を工夫することが大切です。

(2) 検証改善サイクルの確立

P.26

検証改善サイクルの取組の質の向上を図るため、分析ツール北海道版やS-P表（学校や学級別の児童生徒の解答状況を表に整理したもの）等を効果的に活用し、児童生徒のつまずきや教育課程の改善点等をより明確にすることが大切です。

また、児童生徒のつまずきや教育課程改善点等を踏まえて必要な取組を重点化し、全教職員の共通理解の下、教育課程の改善を組織的に進めることが大切です。

(3) 小学校と中学校が連携した取組の充実

P.28

同一中学校区内の小学校と中学校が連携した取組の推進に向けて、地域で育成すべき子どもの資質・能力を検討しながら、各教科等や各学年の指導の在り方を考える合同の研修会を開催するなど、取組を工夫することが大切です。

(4) 望ましい学習習慣の確立

P.30

子どもの学習習慣の確立に向けて、学校と家庭が連携して取組を進めることが大切です。

特に、各学校においては、教職員の共通理解の下、子どもの発達の段階に応じた家庭での学習計画の立て方や学習内容を示すなど、取組を充実させることが大切です。